



基幹作物のばれいしょ畑



盛多 勝美 議員

盛多 長は、環太平洋連携協定（TPP）の行方を見据え、どのような政策を考えているか。

盛多

本町の農業振興に当たり町

町長

将来にわたり、希望と意欲を持って営農が持続できるように

関係機関、団体と密にし、安定的な農業経営に引き続き努力する

TPPの行方と本町の農業政策について

町長

基幹産業の農業をしつかり

と持続的に発展させるという考え方はこれまで同様です。基幹作物であるパレイシヨの産地間競争に耐え得るブランド力の保持と高品質化を図る取り組みを強化する。経営主の高齢化により、後継者がいない労働力不足が危惧される中、担い手確保に向けた取り組みを展開していきたいと考えている。

盛多

加工販売を重点に、6次産

業化の進め、企業の誘致の考えは。

町長

高収益野菜の取り組みの支

援、地域の中で商品開発や共同での加工品づくりなど、今後そういう6次

産業化の方向で自分たちがみずから取り組むかということも含め、今後の町としての展開に向けての取り組みについては、いろいろな方の意見を頂

きながらぜひ進めていきたい。

夜間・休日急病センターの状況

盛多

羊蹄医師会が運営主体と

なって運営しているが、医師の確保や診療状況はどうか。

また、厚生病院医師の労働負担は軽減されているか。

町長

初期救急の応援体制を平成

25年1月から構築し、当初は日曜日のみの先行実施でスタートしました。



夜間・休日急病センターのある厚生病院

現在は毎週土曜日と日曜日を中心に運用しています。

医師確保等の取り組み実績については、民間の医師人材紹介事業者の活用、札幌医科大学へ派遣要請を行い11名の診療応援を頂いている診療日数を見ると、管外の応援医

師が71.5日、医師会会員の医師36日、厚生病院の医師5日となっております。

厚生病院で働く常勤医師の勤務負担軽減が確実に図られている。今後も医師確保等の取り組みを推進していく。

一般質問 盛多勝美